

## 私の読書週間

末娘から手紙と図書二冊が送られてきた。手紙には 10月 27 日から読書週間が始まったことと、読書にまつわる話で、先月 NHK スペシャルで放送された (AI が解析したこととして) 「健康寿命を伸ばすには、読書が大事」という話を書いてあった。読書をするには、好きな本を探したり、書店、図書館へ足を運んだり、インターネットを利用したりと脳を活性化すると、いろいろと思考回路を巡らせるのが、人を老けさせず、健康へと繋がるようである。そんなことを思いながら送られてきた本に目を通してみた。一冊目は「新にっぽん奥地紀行」(芦原伸) でもう一冊は「ルーム・オブ・ワンダー」(ジュリアン・サンドレル) であった。



「新にっぽん奥地紀行」は以前に読んだことがあるイザベラ・バードの「日本奥地紀行」をもとに芦原氏がバードの旅したルートを、鉄道を使って辿る紀行本である。バードはイギリスの女流紀行作家で明治 11 年 5 月に日本を訪れ、横浜、日光、会津、新潟、米沢盆地とみちのくを巡り、北海道へ渡った旅を「日本奥地紀行」として書いている。バードは旅の途中日本の自然の美しさに感激し癒されている。また人々の貧しいけれど偽りのない姿に感動していた。バードは旅のスケッチも残っていて、当時の建物や庶民の人々の様子、アイヌの人々など、細部まで丁寧に描いている。芦原氏の本にもバードのスケッチが載っていて、とても興味が深かった。また鉄道の旅で出会った人々との触れ合いも、私まで一緒に旅をしているようで、

とても楽しい本であった。

鉄道と言えば、バードも日本到着後、横浜―東京間の鉄道に乗っている。当時の生活基準が、また興味があるのだが、当時の太政大臣(今の総理大臣)の給料が 800 円なのに対して外国の鉄道技師の給料が 850 円であったとの事。明治新政府が「鉄道」をこれからの日本には欠かせない重要なものであると捉えていたことがわかる。

現在の東京―横浜間をみても、とても過密地帯で、東海道新幹線、東海道本線、京浜東北線、横須賀線、湘南新宿ライン、東急東横線、東浜急行線と網の目のようである。わずか一本の鉄道からこのような多くの路線が繋がったことにも、とても感激深いものを感じた。



もう一冊の「ルーム・オブ・ワンダー」であるが、この本はフランスでベストセラーになった本である。シングルマザーの目の前で交通事故にあうところから物語は始まる。息子は昏睡状態で母親は仕事中心だった自分を責め後悔する。そんなある日、息子の部屋でノートを見つめる。息子の「やってみたい事のリスト」そこには書いてあり、奇跡を信じ母親はそれを実行していく。母親の強さと行動力には感心すると同時に、昏睡状態の息子の心の声にもユーモアがあり、とても面白い本であった。

二冊の本を読み終えて今年読書週間は終わった。読書はいろいろな時代や様々な世界へ、私を連れて行ってくれる。そして、新たな発見と感動を与えてくれる。読書は本当に楽しいものである。(専務理事 石川一十三)

## 小林旭プレミアムコンサートに参加して

朝、晩めつきり寒くなり、今年もあと僅かです。体調管理にずぼらな私もやらねばと思うこの頃です。

先日小林旭コンサートに出掛けました。聴衆の方々もわたくしと同年代の方で小さいころアキラ節という数々のヒット曲を耳にして育った方たちです。

今日も元気な 80 歳とは思えない姿でステージに立ち、あの原動力はいったいどこからと思うほどエネルギーで、2 時間休憩もなく歌い語りました。すごく感動しました。福島民報 10 月 22 日の「みんなのひろば」に福島市・熊坂輝子(77)さんの投稿した一章をお借り



しますが「哀愁を帯びた高音の美声は今も変わりなく、聴衆を魅了します。芸能生活 60 年とのこと、がむしゃらに生きた若い時代、自然体で自分らしくという今、命あることのありがたさ・・・歌で少しでも人の役に立つならという一言一言に深い人生訓を感じました。圧巻のステージに感動と称賛の拍手が鳴りやみません」私も同感ですし、元気をたくさんいただき、年末の仕事の糧とすることもできました。とても素敵な一日になりました。

(料理教室受講生 高橋玲子)

## クミコのお菓子歳時記～Jadore\_lesgateaux (2)

紅葉の季節も終わり、クリスマスの華やいだ季節となりました。皆様、今年はどんなケーキを召し上がりますか？さて、今日はフランスのノエルの定番 Buche de Noel をご紹介いたします。

### <Buche de Noel au Chocolat

#### チョコレート・ピュッシュ・ド・ノエル>



ピュッシュは薪、ノエルはクリスマス。ノエルの夜に赤々と燃える薪はイエス・キリストの誕生を象徴し、ツリーに使う常緑樹は強い生命力、永遠の命を象徴していると言われます。ロールケーキで薪をかたどり、アイビーやきのこを飾り、洋酒で大人の味に仕上げます。聖なる静かな夜に永遠の命を願って…

#### 材料(長さ20cm)

- ココアのスポンジ生地(ジェノワーズ)27cm×28cmの天板  
(天板の大きさによって生地量を計算する)
- 薄力粉 60g ココア 15g グラニュー糖 75g 卵(L)3個  
シロップ(水 200cc+グラニュー糖 100gを沸騰させラム酒大1を加える)
- モカ生クリーム 生クリーム 200cc グラニュー糖大2  
インスタントコーヒー大2 ラム酒大1
- ガナッシュ 製菓用チョコレート 200g 生クリーム 100cc
- ラフランスのシロップ煮 2個分

#### 作り方

1. 天板に紙をひく。オーブンを200℃に予熱する。
2. ボールに卵を割りほぐし、グラニュー糖を入れ、湯煎にかけ混ぜながら、ひと肌温める。
3. もったりと白っぽく、固くなるまでしっかりと泡立てる(ハンドミキサー使用)
4. 薄力粉とココアを合わせてふるい、3に1回で加えゴムべらでつやが出るまで手早く混ぜる。
5. 4の生地を天板に流し、表面をならしてオーブンに入れ10～12分表面に弾力がでるまで焼く。焼けたら鉄板から外し網にのせ、粗熱を取る。
6. モカ生クリームを作る。生クリーム大2とラム酒でコーヒーを溶き、残りの生クリームに戻し、8分立てに泡立てる。
7. 紙をはずした生地の巻終わりを斜めに落とす。シロップを全体に打ち、6の生クリームを表面用に少し残して塗り、薄切りにしたラフランスを並べる。手前から巻き、紙をまいて生地を落ち着かせる。ロールケーキの1部を切株用に切り、残したクリームを表面に塗り、切株も接着させる。
8. 製菓用チョコレートに沸騰させた生クリームを加えてゆっくり混ぜて溶かす。絞れる固さになったら絞り袋に入れ、7のロールケーキに丸口金で線にしぼる。
9. 皿にケーキを乗せ、ココアや粉砂糖を振り、葉っぱや実で飾り付ける。

(料理教室受講生 本田久美子)

## 福島菽友会史跡巡りに参加して

11月11日(日)穏やかな日とのなか14名の参加者で第23回となる市内探訪に出かけました。今回は信夫山にある寺社3ヶ所と舟場町の長楽寺(元福島城三ノ丸跡地)でした。4台の車に分乗して案内役は郷土史家守谷早苗先生(東北大OB)で、懇切丁寧な説明は楽しく、勉強になる1日でした。

最初の薬王寺は信夫山の東端にあり、本堂には「如意輪観音坐像」が安置され半月型の口は微笑を浮かべ引き締まった首筋は荘厳さを引き立てていました。慈覚大師(天台宗)作なる「峯の薬師」が薬師堂にあり、信達十二薬師第一番札所とのこと。なかなか足を運ばないお寺で室町時代の観音様の説明をご住職と守谷先生から伺いました。



次は、護国神社脇にある黒沼神社を訪れました。延喜式の幣殿と本殿が接続しないで全体にスッキリ見せる効果のある神明造りの本殿です。

※延喜式とは平安時代の神社関連の法令細則で現代に至っているようです。

※拝殿(人が入れる)、幣殿(供物を置く)、本殿(人は入れない)の造り方の技法がわかった。

3番目は「信夫山墓地」に行き、一般的墓地(仏式)に神式墓地が混在しているのは管理者が護国神社であるからではないかの説明を受けた。少し歩いて福島市の「桜の開花」観察木の現物も皆で確認しました。

其の後、信夫山中腹の大円寺(浄土宗本山知恩院)に行き、ご本尊の隅廊下の奥に大柄の伎芸天(諸芸の成就天女像)が置かれ、昭和20年に当寺に寄進された由来をご住職から伺いました。三木宗策の作(郡山市生まれ)県彫刻界の巨匠太田良平の師でもある。参加者から多数の人が見られる場所に移したら…の声がありました。

最後は、奥羽鎮撫総督府が置かれた長楽寺(曹洞宗)を訪れて「世良修蔵と家来下僕併記の位牌」を特別にみせていただき又、仙台藩の意向を受け世良暗殺に役立った目明かし浅草宇一郎夫婦の墓も手厚く守られていました。

福島城代本庄繁長上杉軍と伊達政宗軍との伊達軍総崩れの「松川の合戦」という戦国時代の戦功で長楽寺に埋葬された越後村上生まれの「本庄繁長一族の碑」も初めて聞く話でした。

あらためて、日本人の神仏混合、仏教で宗派を問わず参拝信仰する寛容さ、いかげんさも参加メンバーの方々との話題になりました。散策の途中では今年の紅葉が酷暑の影響もあり、葉っぱの上部が深紅で下部が緑のままのバランスが、見た目新鮮できれいでした。



私は、史跡探訪会に参加2回目でしたが守谷先生、菅野幹事さんほか参加メンバーの楽しい会話にまぜていただき有意義で嬉しい1日を過ごすことができました。ありがとうございました。

石堂信也(会員)

## 私のフランス語日記

Le 5 octobre 2018

Je peux voir une petite forêt par la fenêtre du bus. Non, c'est un champ ! Avant l'accident de la centrale nucléaire, les épis dorés de riz ondulaient dans le vent en automne . En 7 ans, le champ est devenu forêt.



Il n'y a plus de clients dans la zone commerciale achalandée avant l'accident. Aucun enfant n'est à l'école où l'on entendait de nombreuses voix enjouées. La terre, les bâtiments ont été contaminés, alors les habitants ont été forcés d'évacuer. La ville a été abandonnée et c'est devenu une ville fantôme. En regardant la ville en ruine, je me souviens d'un vieil homme. Il avait 102 ans, et il s'est suicidé en laissant un message: j'ai vécu un peu trop longtemps. Ça c'est passé la veille de l'évacuation de son

皇紀二六七八年（平成三十年）神無月五日

バスの窓越しに見ゆるは小さき森。あらず、圃場なり。原発事故の前には秋の風が黄金色の稲穂を揺らしたる圃場なり。7年の歳月は圃場を森に変えたり。

賑わいたる商店街に人はおらず、繁き遊びの聲が聞こえし学びの舎に子らはおらず。汚されし土地、建物より避難を強いられし町人。捨てられし町は廃墟にならん。斯の町を見るに思ひずるは 102 歳の翁。「吾、生きることに過ぎたる」と言ひ遺し自死せん。一日を生きるに難し戦中戦後の時を生きながらえし彼をして自死為さざらしむること能（あた）わざりしや。自死せんとて 102 歳までを生きにしか。人生斯く在りや。

原子力と呼ばれし巨大技術、確かなる廉（やす）き電気を消費者に、確かなる税を地域に、地域の民人には確かなる収入を齎（もたら）さん。しかる後に避難を強い日々常なるを奪い、終いに 102 歳の翁を自死に追いやりぬ。事故所以の死者 2000 有余に上りたる。

技術は誰のもの、誰がためぞ？民人に幸福を齎（もたら）さざるものは技術にあらず。庶幾（こいねが）わくは遍（あまね）くエンジニア、事故が引き起こせし不幸を拳々服膺（けんけんふくよう）し謬（あやまち）ちを繰り返さざることを。

バスは到着せん、吾が働きし福島第一原子力発電所...

文語訳にも挑戦してみました。

（会話教室受講生 川崎 豊）

quartier. Il a survécu à la 2<sup>ème</sup> guerre et l'après-guerre qui étaient des périodes où il était difficile de survivre même une journée. Ne pourrait-il pas éviter de se suicider ? A-t-il vécu jusqu'à 102 ans pour se suicider ? C'est ça la vie ?

L'imposante technologie appelée << énergie nucléaire >> a apporté de l'électricité moins chère aux consommateurs, des recettes fiscales stables aux régions, des revenus stables aux résidents. Ensuite elle a forcé les résidents à évacuer et les a privé de leur vie quotidienne. Finalement, elle a poussé un homme de 102 ans au suicide. Jusqu'à maintenant, le nombre de décès liés à l'accident de la centrale nucléaire se monte à plus de 2000.

La technologie est à qui, pour qui ? Ce qui n'apporte pas le bonheur aux gens n'est pas de la technologie. J'espère que tous les ingénieurs ne répéteront plus jamais des erreurs graves en gardant profondément à l'esprit le malheur provoqué par l'accident.

Le bus arrive bientôt à la centrale nucléaire de Fukushima Daiichi où je travaille....

Yutaka KAWASAKI



Chez moi

⇒ Criminel (sanglier) ?



Petit boutique

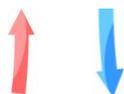
Dépôt de sol contaminé



次回は吉田美由樹さん、お願いします！

## 清田彩子さんのフランス語文法Ⅱ

### － 上 と 下 －



「～の上に」をフランス語に訳すとしたら、どんな単語を思い浮かべますか？

一番最初に思い浮かぶのは、前置詞 **sur** でしょうか。

たとえば、こんな文章が思い浮かぶでしょう。

Le livre est **sur** la table. (本はテーブルの上にあります。)

このような使い方が一番一般的だと思います。

では、次のような文章はどうでしょう？

Il a épinglé une affiche **sur** le mur.

(彼は壁の上(?)にポスターをピンで留めました。)

この場合は、「～の上に」と訳すのには違和感がありますね。ポスターは、地面に対して垂直に立った壁に貼られていますから。このように、**sur** の意味は、「～の上に」だけではなさそうです。

辞書 Petit Robert には、**sur** の第一義として *Devant un complément, désignant une surface ou une chose qui en porte ou en soutient une autre.* (補語の前について、表面を示したり、何かを支える物を示す)とあります。

つまり、上でも横でも下でも、接している場合は **sur** を使うのです。たとえば、

J'ai posé un papier **sur** le plafond.

(私は天井に紙を貼りました。)

ということもできるわけです。

※Les avions passent **sur** nous.のように、接していない使い方もありますが、これには位置関係以外の影響があり、基本的には **sur** = 「接している」と考えていいようです。

では、**sur** の対はなんなのでしょう？ **sous** でしょうか？

では、**sous** の使われ方を見てみましょう。

Un chien dort **sous** la table.

(犬がテーブルの下で寝ています。)

犬は、テーブルと接していない下方にいます。また、

Il a caché son portable **sous** l'oreiller.

(彼は携帯を枕の下に隠した。)

携帯は枕に接した下にあります。つまり、**sous** は接していても接していなくても、何かの下にあることを示すことができるのです。ですから、**sur** と **sous** は対とは言えないですね。

**sur** = 接している

**sous** = 何かの下

と覚えるといいでしょう。

他に「上」「下」を表すものとして、**dessus**, **dessous** があります。これらは **sur** や **sous** と違い、前置詞ではなく副詞ですから、動詞を修飾します。

※17世紀から前置詞として使われなくなり、前置詞的に使われ

るのは **de dessus**, **par-dessous** など他の前置詞と一緒に使われる時だけです。

Ce siège est solide, vous pouvez vous asseoir **dessus**.

(その椅子は頑丈です。その上に座れます。)

このように **sur celui-ci** (=ce siège) をまとめて **dessus** としたり、

Un crayon est tombé **dessous**. (鉛筆が下に落ちた。)

のように「下方に」という意味だけで **dessous** が使われたりしますね。どちらも目的物に接しているかどうかにかかわらず、垂直方向に上か下かを示します。

そのほか上・下を表すものとして、**supérieur**, **inférieur** があります。品詞は形容詞で、名詞を修飾します。

Une partie **supérieure** d'un mur (壁の上部)

のように使われます。

辞書 La Rousse に **supérieur** の意味として、*qui se trouve dans la partie haute d'ensemble, est situé au-dessus du reste* (かたまりの上の部分にあり、残りの部分の上方に位置する)とあるように、何かの上部にあることを指し、「テーブルの上」のような使い方はされません。

Les étagers **inférieurs** de l'immeuble

(建物の下の階(複数))

のように、**inférieur** も何かの下部をさします。

また、**en haut**, **au/en bas** という表現もあります。これらは、

Où est le monsieur ? Il est **en bas**.

(男性はどちらにいらっしゃいます？下にいらっしゃいます。)

Le livre est **en haut** de l'étagère.

(本は棚の上の方にあります。)

のように、上部・下部、または上方・下方を示します。**dessus**, **dessous** と同義と考えていいでしょう。

まとめると、

**sur** : 前置詞で、名詞の前に置く。上でも下でも、目的物に接していることを示す。

**sous** : 前置詞で、名詞の前に置く。目的物に接しても接してなくても垂直方向で下にあることを示す。

**dessus** : 主に副詞として使われる。目的物に接しても接してなくても垂直方向で上にあることを示す。 = **en haut**

**dessous** : **dessus** の反対。 = **au/en bas**

**supérieur** : 形容詞で名詞の後に置く。目的物の上部を示す。

**inférieur** : **supérieur** の反対。

日本語では「上」「下」のみですが、フランス語では実に様々な表現が使われます。

それぞれの特徴をおさえて使い分けてみてください。

(清田彩子)

